

沖縄戦の遺骨 遺族の元へ

スーパーインポーズ法で頭骨と遺影を鑑定

60年ぶりの帰宅

平成八年八月沖縄県志頭与座塚で細井広三郎名の万年筆と頭蓋骨が発見された。遺骨は沖縄県摩文仁の県が管理する仮安置室に入れられ放置された。

遺品の万年筆は沖縄県庁から厚生労働省に紹介されたと思われ、遺族を突き止めるには至らずこれも放置されていた。今年二月、沖縄で四十年近く遺骨収集活動続ける、沖縄県那覇市楚辺の国吉勇氏よりその情報を得たので早速遺族探しに着手した。

先ず摩文仁の平和祈念資料館の検索機で細井さんが東京都出身であることをつきとめ、東京都の協力で弟さんが千葉県にお住まいであることがわかった。

発見された時の状況から頭蓋骨が細井さんであるという自信はなかったが、弟さんに事情を説明し、東京歯科大学の橋本正次先生に鑑定



60年ぶりに肉親の事元へ帰った細井さん

を依頼することにした。橋本先生は、北朝鮮に拉致された松木薫さんといつて渡された、遺骨を鑑定し偽者と見破った、骨の鑑定では世界でもトップクラスの方である。今回は先生が開発された「スーパーインポーズ法」という、世界に一台しかない機械で頭蓋骨と細井さんの生前の遺影を基に鑑定を行い、細井さんにほぼ間違いのない鑑定結果を頂き細井さんは弟さんの家に六十年ぶりの帰宅となった。

犯罪捜査で利用の鑑定方法

スーパーインポーズ法 DNA鑑定と並び白骨化したり、損傷が激しい身元不明の遺体を個人識別する鑑定方法の一つで、主に犯罪捜査で利用されている。頭がい骨と、該当者と思われる人物の顔写真を重ね合わせて解剖学的に比較。同一人物かどうかを推定する。

一九三五年に英国で実用化され、半透明にした

遺留品返還状況

当会はこれまで、第二次世界大戦の遺留品の返還活動に取り組んできましたが、多くの方々のご

協力により返還状況は別表のとおりです。これからも、少しでも多くのものが、肉親の元へ帰れるよう取り組んでまいりますので宜しくお願いください。

遺留品名	持主	出身県	遺族	返還日
1 日章旗	長坂 政雄	福岡県	義姉(福岡県)	平成12年5月23日
2 日章旗	鶴見 治平	京都府	妻(埼玉県)	平成13年2月2日
3 日章旗	川口 時雄	長崎県	姉(長崎県)	平成14年2月
4 日章旗	岩田 武雄	島根県	妻(島根県)	返還済
5 日章旗	児山 尚記	福島県	妻(福島県)	返還済
6 日章旗	小俣 清治	山梨県	弟(山梨県)	平成13年8月7日
7 軍人手帳入れ	萬代 三治	兵庫県	妻(兵庫県)	平成13年9月22日
8 日章旗	村本 博	福島県	弟(茨城県)	返還済
9 集合写真	10名		遺族6名・本人4名	返還済
10 認識票	小林 和定	北海道	姪(岩手県)	平成14年12月19日
11 認識票	石坂 辰雄	埼玉県	義姉(群馬)	平成14年12月21日
12 定規	金子己千衛	山形県	妹(山形)	平成14年12月21日
13 三角定規	法領田	岩手県	遺族受取拒否のため太平洋戦史資料館に預ける。	
14 万年筆	渡辺 秋政	鳥取県	長女(鳥取県)	平成15年2月2日
15 万年筆	内間 良和	沖縄県	妻(沖縄県)	平成15年6月厚生労働省より
16 万年筆	細井広三郎	東京都	弟(千葉県)	平成15年6月22日
17 日章旗	椎野正太郎	静岡県	孫(静岡県)	平成15年6月厚生労働省より
18 日章旗	大野 叶一	愛媛県	長男(愛媛県)	平成15年6月厚生労働省より
19 日章旗	西田 富雄	東京都	弟(東京都)	平成15年6月23日
20 日章旗	角谷 巖	北海道	妹(北海道)	平成15年8月5日遺族判明
21 日章旗	駒野 滋	北海道	甥(北海道)	平成15年8月5日遺族判明
22 認識票	上田 毅	徳島県	弟(徳島県)	平成15年8月5日遺族判明
23 カバン	井上龍二郎	鳥取県	本人	平成15年8月5日遺族判明
24 記章	大池 和平	静岡県	弟の姪の夫(静岡県)	平成15年8月6日遺族判明

して、位置関係に矛盾点がないかを比較する。生前の写真が不可欠だが、焼骨する前に頭がい骨のデータを保存し、後に該当者が浮かんでも照合できる。

年齢差がある写真二枚だけを重ね合わせ同一人物かを鑑定する方法もある。昨年九月に北朝鮮拉致被害者の訪朝調査団に加わった東京歯科大の橋本正次助教は、曾我ひとみさんら帰国した被害者について、拉致以前の



細井さんの遺骨が発見された沖縄県志頭与座塚

平成十四年度総会

平成十五年八月十日午前九時より久留米大学学生会館において平成十四年度総会を開催しました。会議は当会の高木事務局長を議長に選出し、永田理事長の挨拶、塩川副理事長の活動経過報告と決算報告の説明の後、矢野監事の監査報告に続き今年度の活動方針が承認されました。

戦後五十八年が経過しようとしているにもかかわらず、多くの遺骨と遺品が戦場に放置されている現状を考え、当会として「戦没者の遺骨と遺品を遺族の元へ帰す」ための全国署名活動を行うこととしました。

また、戦争を風化させることなく平和を守るために、当会の活動の報告や悲惨な戦争を語り継ぎ、イラクをはじめとする戦争反対のための出版物を発行することにしました。

事業の成果 当年度は、当会のNPO法人設立に伴い、ホームページ作成することに

まず、(1)ホームページを作成すると同時に、沖縄のNPO法人より数百点の遺留品を、返還することを目的として預り、当会ホームページに写真公開し遺族に返還を呼びかけている。

活動名	活動内容	活動日時	活動場所	支出額
遺留品返還	当会保管している遺留品を遺族に返還。	一年間	全国	
ホームページ作成	設立に伴い、当会の活動内容紹介・遺留品展示・会員募集等作成する。	一年間	当事務局	207,101円
沖縄慰霊巡拝	沖縄にて慰霊活動	2月中旬	沖縄	28,200円
会報の発行	会報「平和の灯」第3号発行	2月28日	当事務局	122,280円
遺留品収集	沖縄NPO法人 琉米歴史研究会・国吉勇氏・平和記念資料館・南風原文化センターより遺留品を収集。	2月中旬 5月下旬 6月21日	沖縄	120,791円
遺留品展示	沖縄平和記念公園の近くにて、当会が保管している遺留品を展示し、遺族探し・情報収集を呼びかけたもの。	6月23日	沖縄	193,341円
フィリピン遺骨受領	地元住民からの遺骨情報を元に昨年遺骨収集をし、今年厚生労働省を同行し受領した。	11月下旬 1月上旬	フィリピン	246,145円
遺骨調査	約10体分を収集した。	5月上旬	フィリピン	178,335円
フィリピン慰霊巡拝	フィリピンにて慰霊活動	6月29日～ 7月4日	フィリピン	133,260円
遺骨の鑑定	沖縄県奉賛会に放置してあった遺骨と遺留品の本人鑑定を東京歯科大学 橋本先生に依頼。	7月 17・18日	沖縄・広島	

平成十四年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書 自 成立の日 至 平成15年7月31日

科目	金額	科目	金額
I 収入の部		III 収支差額	-996,374
1. 会費・入金収入		III その他収入の部	
会費収入	93,000	受取利息	12
2. 寄付金収入		その他収入の合計	12
寄付金収入	482,437	IV その他資金支出額	
3. 書籍販売収入(定価)	4,500	預り金の減少	157,500
当期収入合計	579,937	その他資金支出額合計	157,500
収支合計	579,937	当期収支差額	-1,153,862
II 支出の部		設立時資金有高	2,157,902
1. 事業費		次期繰越収支差額	1,004,040
戦没者の慰霊	155,350	V 正味財産増加の部	
遺骨収集とDNA鑑定の推進	767,866	1. 負債減少額	
会報及戦史発行	105,000	預り金の減少	157,500
2. 管理費		増加額合計	157,500
接待交際費	69,239	VI 正味財産減少の部	
通信費・輸送費	133,822	1. 資産減少額	
消耗品費	279,539	当期収支差額(再掲)	1,153,862
新聞図書費	11,800	貯蔵品の減少	4,500
諸会費	5,000	減少合計額	1,158,362
租税公課	2,000	当期正味財産減少額	-1,000,862
雑費	46,695	設立当初正味財産額	2,013,902
支出合計	1,576,311	当期正味財産合計	1,013,040

平成十五年度 フィリピン慰霊の旅

平成十五年六月二十九日から七月四日までの六日間フィリピン慰霊の旅を行いました。

レイテ島では現地の方達と第九回日比合同慰霊祭を行いました。今年も現地の方達の心のこもった歓迎ぶりに感謝の気持ちで一杯でした。今年は一泊だけ日程に余裕を持ち遺骨収集も行いました。約十体の遺骨が発見されました。



日比合同慰霊祭で地元世話人の方々と 2003年7月

激戦で旧日本軍の約九割(六万五千体)の遺骨が放置されたままのレイテ島で遺骨はいつになったら肉親の元へ帰れるのか。小泉首相及び国会議員の方々は「国の繁栄は戦没者の尊い犠牲があったから」と思うのなら、先ず遺骨を遺族の元へ返してほしいものです。